

| |
|-------|
| 911.3 |
| 八 |
| |

誹諧之秘記
一書

丁

誹諧二部書 全

浪卷書林

文榮堂
翰林堂
文觀堂



誹諧之秘記

誹諧傳と云事世より聞く多し予親素
 一道理如く心氣力と画と神と説因縁法舞々
 阿妙あり語事かくして教とてあり皆を誹
 師と多ふ人又人あり師よりして誹とを来
 誹諧み成就何日者只是合らると云ん
 ようい向者中云決ん出を成就本意此
 境本尊要外たし所兼み有る事と云ふ
 見あさす事と先宗道の云掃くあり
 若席不真法師貞徳すい多し所兼

誹諧秘記一書百韻四十四哥價去嫌夢相其外秘事也
 袖珍抄一書發句十八の切字其外手尔葉の傳來と妻のり
 本式古式一卷誹人席に望し心得るへ事話記

誹諧二部書全

浪卷書林

文榮堂
 翰林堂
 文觀堂



誹諧之秘記

誹諧傳と事世り肉く多し予素
 一道み如し氣力を盡と神に託因縁法尋へ
 師と多家人又人あり師よりと師と也素
 誹諧み成就能何日有只是合らと云えん
 ようい向者中云決んんを成就能本意此
 境衣專要外たし所筆み有全堂と云
 見わすする先宗道の云掃くわ季
 若席能不眞法師貞徳すり多し所筆

ごんれよ 本然くごんぞ 道に州乃強如く
たれ一症たり 簡專要と書つる 高情ゆれ
とせぬまを本意すくやうし 子尔 茲 宗
掃小路 履乃一巻 注ゆたり 堂上 子面 者
此て尔を乃外なり 詠諧 八日 本 子
あひたり 口受 注 知すし 多宗 道 子
善人 後 子 誦 宗 利

とん白紙

詠諧之秘記

式表

類ハ不入 祇 祇 祇 八 後 句 川 雪
花 同 きた 名 前 祇 意 出 止

字 表 十 句 八 知 家人 多 一 裏 子 詮 義
五 沙 法 たり

ウラハ古法 二 句 也 此 二 句 一 意 然 入 家

る 一 今 首 尾 入 今 一 表 六 句 裏 六 句 一
なり 自然 古 法 注 表 裏 乃 教 本 かり 一 多 事
及 子 天 然 たり

二 二 句 也 一 事

天地人^のこ^のこ^のこ^の也^の業^の且^の天^の意^のむ^のし^の紹^の志^の
代理^のたり^のる^の身^の之^の心^の人^の之^のなり^の此^の心^のなる^の上^の
い^のく^のも^の自^の由^のあり^の一^の業^の且^のみ^のか^のき^のり^のこ^の物^の
子^の在^の之^の救^の火^の計^の則^の陽^のを^の貯^のる^の行^の禱^のあり

歌仙二十六ノ救ハ

アナニエヤニエヤウニレヲトコニアヒヌ 十八
アナニエヤニエヤウニレヲトメニアヒヌ 十八

百韻といふ事

百句ト加^もも百韻百吟^をど^うに^しべき^をい^ふ歌^カ

ト^ハリ^ド不^思候^テ下^リ板^ナリ^知人^ハ知^レ禪^禪
之^ノ事^ハ是^ナリ^此救^詩之^ハ刻^ス數^ヲを^示す^ル
花^ノこ^の用^所明^のなり

表^ハ八^句裏^十句^ナリ^裏十^六句^ト
數^ヲ定^ムべ^クナ^リ律^詩終^句安^救人

仍^テ表^ノ類

起^請轉^合 四^句メ^ト五^句メ^ヨリ

起^請轉^合 月^ノ在^轉ノ^場也

裏^ノハ^花之^死生^義之^純在^轉乃^不極^テ
ある^也再^熟其^心不^少仍^韻ノ^字派^ナリ

よりの半 五部系入十類ハ半類と云ふ

禱 禱ハ誨也 別傳委

字用てもくろしす 宗祇文庫書ノ委細

あり清補の不審と書ふ其を以て不審也

禱六義ハ連歌ノ類ニテ歌道六義也

引へしこよそよあるなり

実家ハ色乃こを具品物ト也合てありりなり

△賦

本意ノ補ノ故ニ賦をのそと云之紙ハ重なり

△風

△比

かじりてんぬんもおれおれはるえ

譬喩也

△興

おの成範トて調ひる体なり

△雅

言雅意雅アリ意雅ハ治定ナキ体なり

△頌

十七字ノてルをハハ常也

十八十九ノハ後句ハ一人一字二字

上
入て笑句也 志石切氏了ちり

夢想之事

發句をすは表六句一花句也 句短句を
ハ表七句加句一 百韻要義 秋仁花賀
真行ハ短短キ一宮表九句も日一
一 句ハ短短キ一宮表九句も日一
者ノ含ニルさうり事未練之短短キ一宮表九句も日一
千句後短短キ一宮表九句も日一
夢想門意也

賦物之事

賦ノ字記
長ノ字記

- △上賦ハ 上略ヲ何語ト取也
- △下賦ハ 上略ヲ何ト取也
- △一字高取ハ 香ハ取也
- △二字反音ハ 花ハ繩也
- △三字中略ハ ちやちハ取也
- △四字上下略ハ ちやちハ取也
- △五字中三字略ハ 杜あハ取也
- △三字上下略ハ ちやちハ取也
- △上賦下賦ノ外詠之至ても何いなりしは
と下ハ重絶を知らぬ人乃し変也

ことふをそつとてなれ想し一上古徳無りすと
 さまあり其ふすけいさあうあ之本式は面は賦也
 十句へをよ極ふ取て是以後人の視たり衆極
 表十句さうさうの合左極はひけりた委細乃
 事ハほくさす只一通りそて人極も十句へをよ極
 取りも一真如想し一極白銀ノ事とては毛
 以あるゆへに賦乃專要の文字ハ祈禱ノ方七
 口受
 夢想之事夢字ト書極其意ノ字賦乃字
 を一筆長字トハ

夢

廿四日夕

廿四夕

廿四日夕 廿四夕との別字之
 月とて天祐の祈日極茶飯を極也廿四乃夕
 と書とふ視甚不極其事人を極より信じむ
 各々連弁飾乃りてとて受用しとて之系者
 数多たより長の字何の極なり一夢想極知く
 去歳茶極祈禱賀儀の極りて一ある極しき
 たり飛くくは極の系極は聖像極のけ極香
 不極執筆も計と極し一夢想極事と極極
 すは極宗道身ともとる一極極て一家と極代と

書てするもあり又第三に惣代とて一紙を附
家もありいづれも不若ト云ふ時好附は少
くとも然きらふなりかおといふ後向ふしと云
子類也

玉柳のむし一冊もやあつたといふもあつたなり
のむしと云ふけ家取なり新室具外積ん
流譜のむし無し
ふ向法仕やう長別系九執事三人より一人まで
宗通孔粒ほど一冊宗通十人は執事十人とあり
よてもおくと宗通も三人より一人とて控書宗通

助言宗通向宗通とて三人是れ一人一初明六
粥をさすの登七つ段は後在一紙と云く仕舞を
追か案也無し

一 一丁二寸五分 巾二尺五寸高一尺四寸五分

角足出島日紙發向のけ短冊十枚也竹釘打
短冊寸五分 巾一寸九分 又一寸八分より 十百額とて

一 八百額出島の後をさく一枚のけと短冊也

一 又文字もやと知らんと云ふ後向紙時ハツと云
也やなり哉やなり不定控也とていふもあつ

ありありと

一 我 ぬ 多 くの こと なる こと

圖ナル哉世人のみなし
負ナルかは人のかゝるし

一 本 准 花 柳 公 伝 二 つ 云 々 一
定 一 考

一 牙 二 小 の こと なる こと 無 乃 事 其 中 小 一 傳 入 一 除 字

と 亦 之 事 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 若 菜 十 二 種 多 く 考 ぬ 人 あり 仍 記 之

一 割 菅 芹 蕨 薺 菜 蓬 水 蓼 水 雲

芝 松 土 玉 此 中 若 菜 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

を 奉 僻 事 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

家 説 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 春 季 之 中 小

箱 鳥 白 鳥 冬 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 馬 醉 本 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考 一 考

一 二字くんとハ

多し人ば玉藻さくとくハ句ハ
お上付花ハ米挿付ル歌ハなり

一 四字不付ハ

松と石と骨茶向ハ風と波付ハ

一 濁定の死ハ

のそえむてしる家なり

句切ま身と不才骨季吟詠諧の句

付句 ○まおをねハ鳥を松をうら。紅葉して

句切ま身と不才骨季吟詠諧の句

よりの也

一 重祓又地又ハ

二度ある才身又折るハ地又なり

一 すとてふとハ

セリとるなり家んとてハよそをきこを

ふなりぬい格ハ

一 皮肉骨と云ふハ骨なる祓骨 骨身是成す

ハ一句くハ皮肉骨調中物之骨ラセんと考はつる

と云ふ肉感はらんとおふハ此道は火焼ハなり身

は是乃詠諧と云ふハ未練人ハ教てもつれぬ

そのよそハ此地純純ありハ真草初ハ何ハ

一 下の句ハ二五三四五二四三と不才ハ

なりぬ才なり

二五三四とは

おとに時節をなくさくハ

侍る君みまゐるあのはき

五二四ことは

格翻をほしくきたるく

乃振人の行来もあは

二五五二別条ねー三四のく四之をわーか

不存人能も子向をせよ

歌の篇序題曲流當時遊諧日くある事其へ

作者志す此多情を味あ事書一たり未練は

云海なき事

一三十躰 十躰の内より出る事之發句はんわいふ

もあへく自れしとらき向ハ二十躰内を
まよ加もつた物

△幽玄躰 △行雲 △廻雪 △長高 △高山 △遠白 △澄海

△有么 △物哀 △不明 △理也 △極民 △至極 △麗神 △存世

△花麗 △松躰 △竹躰 △一花躰 △秀逸躰 △抜群 △写古

△面白 △一真 △景曲 △濃躰 △見格 △一節 △拉鬼 △強力

附句
六作 クリツケ
ウミタシ
ヨソへ
ロツトリ
クラマ
ロツパリ

大發句 題在之時は手へくする紫ト力なり

發句ハ多クお終の極如く之れとて角主人公を

多きいふも向ふ成り小佐配一に能主人云々
きは給ふの河ねまゆや
これに家純は景感道と云書あり

とや成左判

詠諧之秘記



杉家藏書

